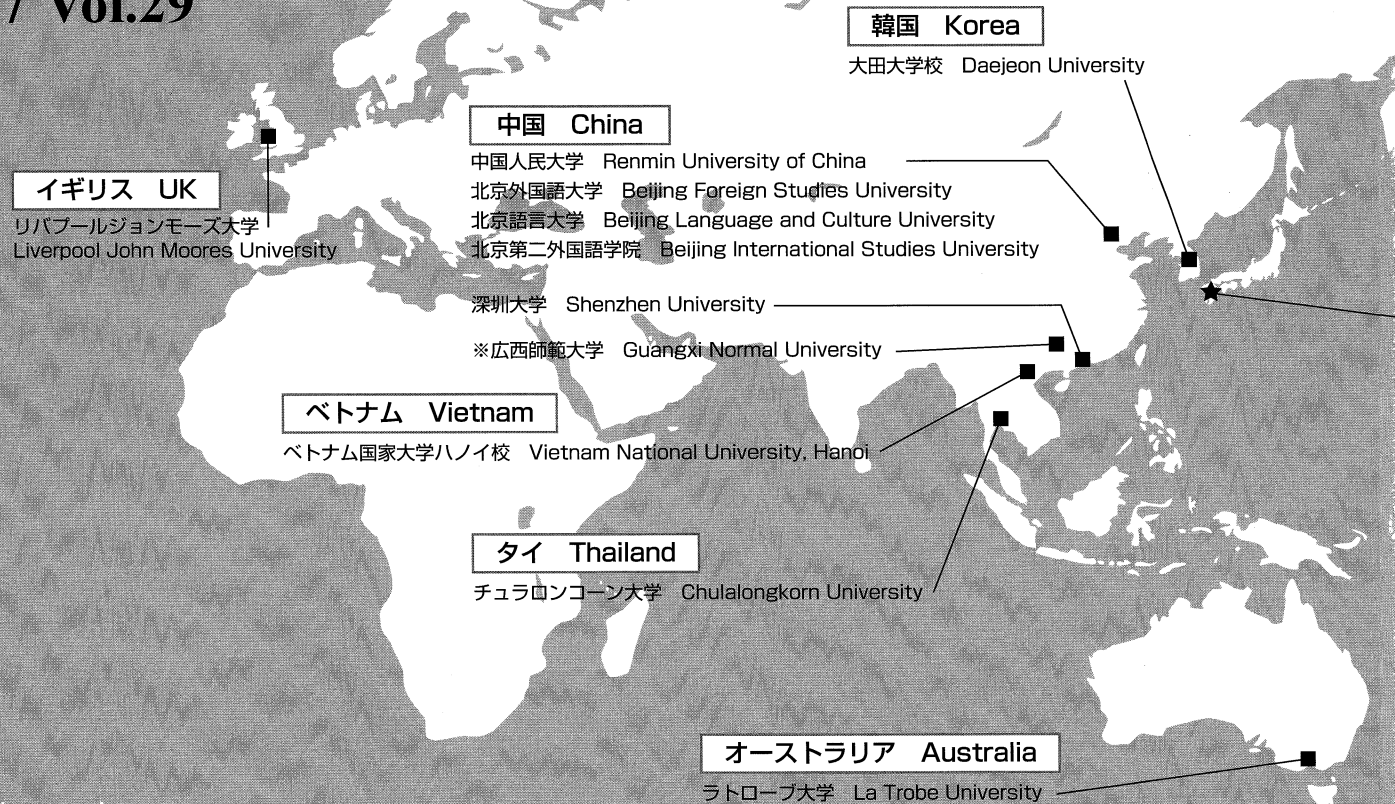


国際交流レター

2007 vol.29

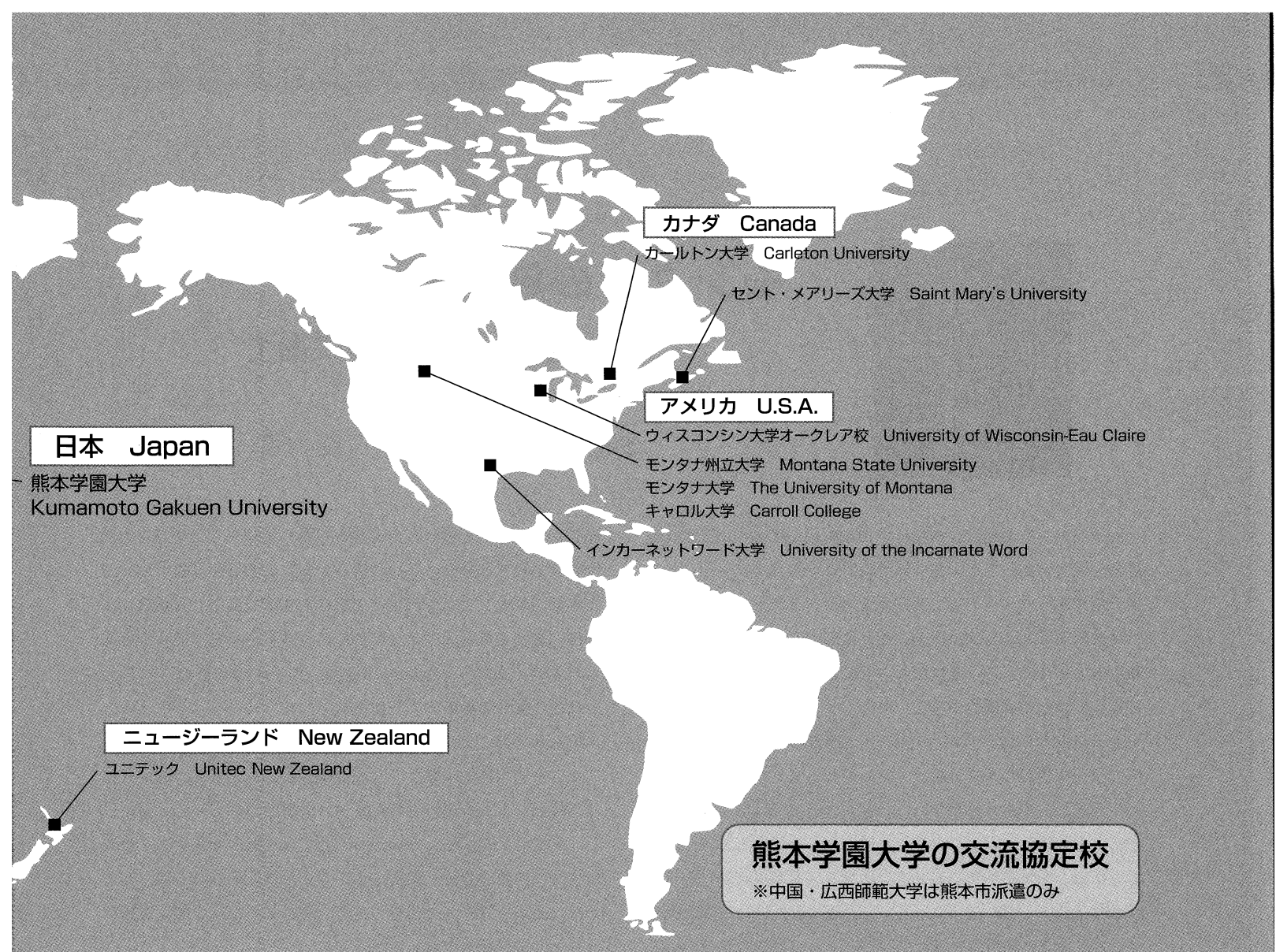
International Exchange Letter





目次

理事長・学長のメッセージ	～国際交流25年の節目を迎えて	2
	理事長 北古賀 勝 幸 学 長 坂 本 正	
TOPICS	新プログラム創設 深圳大学姉妹提携20周年 交換留学生、九州学生アイスホッケーリーグ戦で敢闘賞 第17回外国人留学生弁論大会	4
国際交流プログラム紹介	交換留学 短期交換留学 短期語学ホームステイプログラム	6
留学体験談	派遣交換留学生 受入交換留学生	10
交換教員	王秀瓊 韓国 大田広域市 大田大学校	16



こんな体験しています！

ホームステイ体験
 フィールドトリップ体験
 防災センター体験
 体育祭体験
 お祭り体験
 インターンシップ体験

18

各国留学生のお料理レシピ

王 剣 (四川風麻婆豆腐)
 アンドリア・コナーズ (モンタナ風ツナロール)
 スティーブン・マクナリ (チョコレートケーキ)
 チャン・ティ・ミー (ベトナム風春巻き)

22

国際交流写真館

24

DATA

2007年海外往来
 2007年度 国籍別外国人留学生数
 2007年 留学生参加行事
 交換教員往来
 2007年研修団往来

26



モンタナの旅から

～「世間」と「社会」の狭間で

学校法人 熊本学園 理事長 北古賀 勝 幸

大学間の交流が緒につき始めた1980年代、米韓中の諸大学を訪れる機会があったが、第一回目に訪れたのはアメリカ・モンタナ州であった。その後、テキサス州サンアントニオ、再びモンタナ州ミズーラを訪ねたが、これらの旅を通じての些かな経験からアメリカ人の一端に触れさせて頂くことにする。同行の日本人については割愛する。

話は前後するが、ケネディ大統領が暗殺されたダラス空港でのこと。30歳がらみの男女が一時の別れを惜しんでのことであろうか激しいキスをしていた。個人の問題ではある。機中で着席すると同時に巨大なオジさんがベルトを締めるよう注意してくれる。やがてフライトアテンダント（客室乗務員）が来て「お飲み物は」と聞く。「コーヒー」と返事したのに、問い返してくる。彼女の判断力に疑問をもつ。あるいは発音が悪いのか。以後機中では飲み物は頼まないということになってしまった。語学研修にでかけたある学生がバナナ（ジュース）を頼んだら、バナナ（クリーム）を持ってきたことに怒っていたという話もあるが、引率者の先生（NHKの英会話講師）によれば、日本人の発音ではバナナをパニラに間違われる可能性があるらしいのである。飲み物の話であればそれで済むことだと思ったりもするのだが。

沢田一精（元熊本県知事）氏一行の人々とモンタナ州都ヘレナ空港に降り立ったのは、1982年初夏のこと。少年音楽隊を迎えられたが、そのそばにキャロル大学学長夫妻の姿があった。この年の春訪熊されて以来の再会を同伴の女房と手をとって懐かしがっていた。ホテルには花を生けた一輪挿しの花瓶が置かれていた。日本人女性を思わせる繊細な女性であった。

この感想文の背後にあるのは、（故）阿部謹也先生（元一橋大学学長）の著書『ヨーロッパを見る視角』である。その視角とは中世「世間」論と、近世「社会」論とであろう。所有を物的基礎とした「贈与」に媒介されて成立する支配・従属の人間

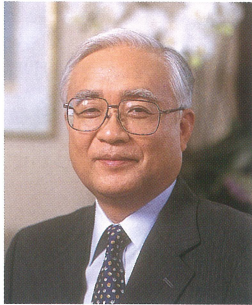
関係からなる「世間」、この関係から脱して独立した平等な人間関係からなる「社会」という視角である。漱石の「猫」は「寄付をとられた」という飼主の先生に批判的である。阿部氏によれば、批判された先生は世間的で、日本もまたそうだろうと言われるのであろう。Societyの訳語「社会」はヨーロッパ社会とは若干異質のものようである。

モンタナのことに返ろう。

モンタナ州と熊本県との交流提携のこともあって、調印式には原住民の方々も民族衣装をまとって出席されていた。後のこと、その人々の住む reservation（指定保留区）をカナディアンロッキーの麓で見た。保留区！。ミズーラ、そういえば、ここでは、煙草を買うのに苦労したが、反して、堂々と構えた店にはピストルが並べられていた。

姉妹大学提携校モンタナ州立大学を訪ねたあと、ホテルからボーズマンの街を通って、学長官舎へ向かった。街路では馬車で行くわれわれを手を振って歓迎してくれた。忘れ得ぬ光景である。やがて、ティーツ学長・教職員・学生に迎えられて官舎に到着した。敷地にはせせらぎが流れ、学長の愛馬が飼われていた。乗馬した私を学長自ら手綱をとられて辺りを散策した。担ぎ上げて馬に乗せられた女房は喝采をあげていた。準備された食卓に着いた時、学長夫人の姿はなかった。選挙運動中とのことであったが、実は離婚話が進行中とのことであった。好意と共にあったのは世間ではなく「社会」だったのであろう。

モンタナから帰って二つの後遺症が残った。州庁招待の昼食会で食べたベーコンとソーセージの美味しさのために、わが家の食卓にはこの二つのものがのらなくなったこと、二つ目は、素晴らしかったモンタナの旅以上の旅はあり得ないものとして、女房が旅を望まなくなったばかりではなく、私の個人的な旅をも喜ばなくなったということである。



国際規格の 職業人の育成をめざして

熊本学園大学 学長 坂本 正

熊本学園大学は、1942年の東洋語学専門学校開設以来、65年に亘って脈々と引き継がれた「世界志向の教育」の伝統を推進しています。1982年アメリカ・モンタナ州立大学等諸大学との姉妹校提携以来、現在では、欧米、アジア、オセアニアなど9カ国19大学との国際交流活動を展開し、今年は25周年にあたる節目の年でもあります。この25年間で多面的な国際ネットワークを構築してまいりました。

本学は、「学生が主役の大学づくり」「国際規格の職業人の育成」「地域に存在感のある大学であり続ける」の3つの教育指針を柱に、2005年4月より、新しい伝統と価値を創造する“熊本学園大学ルネッサンス”を掲げ、九州ナンバーワンの学部教育を実践しております。そして今年は「熊本学園大学ルネッサンス躍進の年」として位置付け、さらなる魅力ある大学づくりに取り組んでいます。

グローバリゼーションの進展の中で、大学院をベースにした国際交流が新しい潮流になっています。大学院修士課程は、大学院が機能するための“標準装備”であり、博士後期課程は国際的な研究を行うための“国際標準”となっている時代に本学は、全学部の上に博士後期課程を設置し、国際標準の大学として国際化に対応した大学への進化を遂げています。さらに、国際レベルでの研究活動を支援するため「高度学術研究支援センター」を設置し、国際的プロジェクト等のサポート体制を整え

ています。日本・中国金融研究プロジェクトは中国工商銀行の都市金融研究所と日本・中国の共通の金融問題を共同で研究しており、毎年研究報告会が日中両国で開催されており、高度な研究交流が盛んに行われています。また、世界的な学術交流の新たなニーズに対応するため、海外からの大学院生や、大学教員の短期受入れなどの課題にも今後取り組みたいと考えています。

学部をベースにした国際交流では、交換留学制度、短期交換留学制度、短期語学ホームステイプログラム、学生研修団等の多彩な留学・研修プログラムを設け、向学心あふれる学生を世界各地に派遣しています。留学した学生は、海外経験を積むことによって、視野が広がり、飛躍し、目を見張るばかりに大きく成長します。また、本学が受け入れる留学生も世界各国から数多くキャンパスで学んでおり、多数の外国人教員も学生を指導しており、国際化の雰囲気に満ち溢れている本学のキャンパスは小さな地球であると言えます。

このような高度な教育・研究環境のもとで、今後も海外交流大学・研修機関等のさらなるパートナーシップにより、グローバルな時代に対応できる「国際規格の職業人の育成」に努めたいと思います。そして、国際交流がさらに充実・発展することを祈念し、ご挨拶といたします。



新プログラム創設 ～ 短期交換留学制度 ～

1セメスターの留学である「短期交換留学制度」ができた。これは、2007（平成19）年2月～3月まで行われた2ヶ月間の「短期派遣留学制度」に替わるもので、以前から多くの要望が出されていたものがようやく実現したことになる。これにより、就職活動やカリキュラム、金銭面に大きな負担とならずに交換留学をすることができるようになり、さらに留学先で修得した科目についても、単位換算が可能となる。

短期交換留学は、イギリス・リバプールジョンモーズ大学に4名、ニュージーランド・ユニテックに2名派遣される。条件は基本的に1年間の交換留学と同じで、本学に授業料を納入し、留学先大学での授業料は免除、また、留学援助金として本学から40万円が支給される。平成20年度に最初の短期交換留学生6名が派遣される予定。



イギリス・リバプールジョンモーズ大学



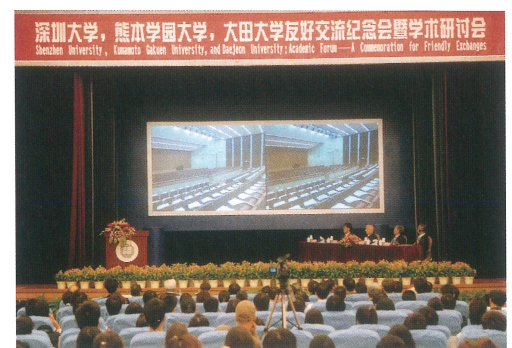
ニュージーランド・ユニテック

深圳大学姉妹提携20周年 ～ 本学の国際交流から25年 ～

今年は中国・深圳大学との姉妹提携20周年の年にあたり、2007（平成19）年11月1日～11月2日の日程で深圳大学において交流20周年記念行事が行われた。本学からは坂本正学長や中野裕治国際交流委員長を始めとする訪問団が、学長講演会および韓国・大田大学校も含めた学術交流会に参加した。



写真左から坂本正学長と章必功深圳大学学長



3 大学学長講演会

また、今年は本学の国際交流25年の節目の年にあたる。当時の駐日アメリカ大使マンスフィールド氏の要請で沢田一精知事（当時）からアメリカ合衆国モンタナ州との県・州姉妹提携の方針が示され、1982（昭和57）年に熊本県とモンタナ州の姉妹提携が行われた。同時に、本学もモンタナ州の州立・私立の9大学と一挙に姉妹大学となる宣言書に北古賀勝幸学長（当時）が調印した。

ここから本学の本格的な国際交流がスタートした。当初は短期留学や研修団の派遣に始まり、その後1年間の交換留学や交換教員といった交流に広がっていった。

1985（昭和60）年に韓国・大田大学校、1987（昭和62）年に中国・深圳大学と姉妹提携するなど、アジアにも交流を拡大、現在ではアジア、北米、ヨーロッパ、オセアニアの9カ国18大学の姉妹校及び協定校と交流を行っている。

交換留学生在九州学生アイスホッケーリーグ戦で敢闘賞を受賞

2007（平成19）年11月、「第28回九州学生アイスホッケーリーグ戦（兼インカレ九州ブロック予選大会）」が福岡県立総合プールのスケートリンクで行われ、本学のアイスホッケー部に所属する交換留学生のダニー・シュワルツさん（カナダ・カールトン大学）が三部リーグで得点王に輝き、敢闘賞を受賞した。受賞者は一部リーグの大学の選手が中心で、三部リーグからはダニーさんが唯一の受賞者だった。

なお、2007（平成19）年2月に発足したばかりの熊本学園大学チームは創部1年目にして三部リーグで全勝優勝し、二部リーグに昇格した。

以下は、ダニーさんによるレポート。

Winning all its games and shutting out their opponents 33-0. KGU won the 3rd division Championship at the 28th Kyushu University Ice Hockey League. Danny Schwartz [an exchange student from Carleton University, Canada (2007-2008)] led the team with 13 points and was selected 3rd division MVP. With the Kumamoto League coming up in December, the team hopes to continue its success and is training hard in preparation.



優勝を決めた直後のメンバー
（ダニーさんは前列右から3人目）

第17回外国人留学生弁論大会 ～ 最優秀賞は中国からの留学生 楊華さん ～

第17回外国人留学生弁論大会が2007（平成19）年6月16日（土）、学生会館4階多目的ホールで開催された。現在、本学には8カ国125名の留学生在籍しており、その中の3カ国9名の留学生在、日本での留学生活の中で感じた思いや、日常生活、文化、制度の違い等を流暢な日本語で発表した。会場には学生を始め、学内関係者や市民ら約200名の聴衆が集まり、熱気に包まれた。

審査の結果は下記の通り。当初志望していた進路に進めずやる気を無くしていたところ、日本で見知らぬ人に受けた親切によって再びやる気を取り戻し、「もしもう一度人生を選びなおせるとしても、私は同じ道を選びます。大好きな日本を選びます。」と熱く語った楊華さんが、最優秀賞とオーディエンス賞（聴衆による投票）を同時受賞した。

大会終了後には、7号館学生食堂で留学生達との交流会が行われ、審査員や当日の来場者が多数参加した。



▲<後列左から>

入江常治熊本市国際交流課課長（審査員）、園田素士熊本県国際課課長（審査員）、銭涛、李鋒、劉東進、中野裕治国際交流委員長

<前列左から>

朴智慧、アンドリア・コナーズ、李世桓、鄭穎儀、クリスタル・ゴンザレス、楊華（敬称略）

審査結果

最優秀賞	経営学科2年	ヨウカ 楊華	China (中国)	「もしもう一度選べたら」	
優秀賞(内容部門)	東アジア学科4年	イセファン 李世桓	Korea (韓国)	「日本のファミリーレストランについて」	
(日本語部門)	商学科3年	リホウ 李鋒	China (中国)	「中国のボランティアの現状」	
(技術部門)	国際経済学科3年	アンドリア Andrea	コナーズ Conners	USA (アメリカ)	「叶った望み」
努力賞	英米学科3年	クリスタル Crystal	ゴンザレス Gonzales	USA (アメリカ)	「一期一会」
	経営学科3年	コウエイ 鄭穎儀	China (中国)	「ほほえみから」	
オーディエンス賞	経営学科2年	ヨウカ 楊華	China (中国)	「もしもう一度選べたら」	

交換留学

<特徴>

○協定校は北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアに9カ国18大学。留学先としてたくさんの選択肢があります。

アメリカ： モンタナ州立大学、モンタナ大学、キャロル大学、インカーネットワーク大学、
ウィスコンシン大学オークレア校

カナダ： セント・メアリーズ大学、カールトン大学

イギリス： リバプールジョンモーズ大学

オーストラリア： ラトロープ大学

ニュージーランド：ユニテック

韓国： 大田大学校

中国： 深圳大学、中国人民大学、北京外国語大学、北京語言大学、北京第二外国語学院

ベトナム： ベトナム国家大学ハノイ校

タイ： チュラロンコーン大学

○留学援助金が支給されます。英語圏・中国・タイは60万円、韓国・ベトナムは40万円（ただし、ベトナム・タイに半年間の留学の場合、ベトナム30万円、タイ40万円）となります。

○休学せず、「在学生」として留学します。

○本学に学費を納入し、留学先での学部授業料は免除となります。

○留学先で修得した単位を、条件のもと単位換算することが出来ます。

○留学制度が「全学部」対象のプログラムであることから学部枠を設けてあります。どの学部にも所属していても留学の機会を得やすい環境です。



プログラムの紹介

1988（昭和63）年にアメリカ・モンタナ州立大学および中国・深圳大学に交換留学第一期生を派遣して以来、各国に協定校を増やし、現在では9カ国18大学に、1年間に30名近くの交換留学生を毎年派遣しています。

これまで300数十名の交換留学生を本学から派遣してきました。



派遣先大学での勉強

[英語圏]

英語圏の留学先で学部授業を受講する場合、TOEFL-PBTで500~550というスコアの条件があります。留学先に入学申込書類を提出する時点までに英語力がそのレベルに達しない場合、付属の語学学校で集中英語コースを受講することとなり、多くの大学は有料となります。前半語学学校で勉強し、後半は学部授業を受講するという留学生も多くいます。

派遣先の大学では、自分の選考に関わる科目やその大学にしか

ない特殊な科目、またその国についての歴史、政治、事情、文化等に関する科目等を履修するケースが多いようです。

留学生の受講科目紹介：

○前半 ESL、後半は ESL と併修で文化人類学を受講、日本文化の授業を聴講しました。（アメリカ）

○留学当初から学部で言語学や文法論、日本史、フランス語といった正規科目を受講しました。科目によっては授業内容が録画され、後に学内で放送されるのでそれを見ながら復習できるような WebCT というシステムがあります。フランス語がそれで、試験も Web 上で行われました。（カナダ）

○留学先で授業が始まる前にまずサマースクールを受講し、学部授業では言語学・法律・ビジネス・観光学等の科目を受講しました。年間を通して、毎夜留学生用の英語コースが準備されており、サポート体制は万全でした。（イギリス）

○1年間語学学校を受講しました。後半はビジネスコースを受講し、インテリア関係の会社でインターンシップを経験することができました。この経験は日本での就職活動にも役立ちました。他にファームステイも経験しました。

（オーストラリア）

【アジア】

韓国では交換留学生のために開講される韓国語の語学に関する必須科目が用意されています。その他にも学部正規科目を受講することができます。

中国では外国人留学生のための中国語科目を受講します。大学によっては、中国人学生とともに学部の正規科目を受講できることもあります。その場合は、授業受講に相応した語学力を要求されます。

ベトナムでは、ベトナム語を勉強することとなります（学部授業はベトナム語で行われる為、実質受講不可能）。ベトナム国家大学ハノイ校の教授が、ベトナム語の個人指導をしてくれます。また、学生のチューターもついて指導してくれるため、学生との交流も十分にできます。

タイのチュラロンコン大学では、集中タイ語コースでタイ語・文化を学ぶコース、正規の学部授業を受講するコース（タイ語）、英語で開講されている国際プログラムコースの3種類から一つを選ぶことになります。これまでは単位換算が可能なことから、全員の留学生が国際プログラムコースを選んでいました。

留学生の受講科目紹介：

- 留学生向けの韓国語に関する科目や、パソコン、中国語、理系やスポーツ科目を受講しました。前期はかなり難しかったですが、後期は耳も慣れ、授業にもついていけました。大学のいたるところに、廊下などにもパソコンが設置してあり、恵まれた環境で勉強することができました。（韓国）
- 留学生用の語学クラスは初級・中級・高級に大きく分かれ、その中も細かいレベルに分かれています。私はまず中級、そして次のセメスターで高級を受講しました。中級までは語学に重点が置かれていますが、高級になると中国文化や新聞講読にまで幅が広がりました。（中国）
- 午前中、大学の近所のタイ語学校に通い、午後は大学の国際コースで現地の学生に混じってスピーチやビジネス関連、タイ文化等の英語による授業を受けています。タイの学生と一緒に英語で授業といっても内容はかなり高いレベルので、学生の英語レベルも非常に高く、教授もネイティブスピーカーです。（タイ）



派遣先の様子

留学について考える時、留学先の治安も大きな要素の一つでしょう。本学の場合、協定校の所在は、人口が数万の小さな町から人口1千万を越す北京のような大都市まで様々です。

最近では日本も犯罪が増加しているとはいえ、多くの諸外国に比べてまだ比較的治安の良い国であることには間違いありません。

そこで本学では安全対策として、海外旅行傷害保険加入の義務付け、留学前の危機管理を徹底するための事前研修、更に留学前から留学中に渡る情報提供を随時行っています。

【英語圏・交換留学生情報】

- 小さい町で治安も人も良く、大学の友人もどとてもよくしてくれました。でも夜は出歩かない、バーにはあまり立ち入らないなど、身の回りには常に気をつけていました。（アメリカ）
- 全体的に治安は良かったけれど、首都だけに危険な場所もありました。また、郊外で人があまりいないようなバス停等も危険といわれていました。学内を張り巡らされている地下通路は夜には危険防止のためにパトロールが巡回し、万が一のための連絡手段のために電話もところどころ設置してありました。（カナダ）
- 街中の治安は良かったけれど、郊外や場所によってはあまりよくありませんでした。ただ、バブ等の前や中には必ず警備員や警察官が常駐していたので、女性の一人歩きも安心でした。もちろん自分自身でも常に周りに気をつけていました。（イギリス）
- 治安が良く人がのんびりしていて問題ありませんでしたが、夜のトラムは絶対一人では乗らないようにしていました。（オーストラリア）
- オークランドはニュージーランド最大の都市なので、国内の他の地域に比べると治安は良くないかもしれませんが、普通に気をつけていれば大丈夫でした。夜の一人歩き、特にアジア系の女の子は危ないと聞いています。キャンパス内も、夜は一人歩きしないようにしていました。総合的に見て、治安は熊本市内くらいだったと思います。（ニュージーランド）

【アジア・交換留学生情報】

- 熊本と同じくらいの規模で、治安は良かったです。ただ、運転が荒い人が多かったです。気候は、冬はかなり寒かったです。寮にはオンドルがあったので快適でした。（韓国）
- 経済特区内は治安がいいのですが、郊外は危険なところがありました。置き引きやスリが多く、私も一度不注意で携帯電話を盗まれたことがあります。バッグやパソコンを盗まれた友人もいます。また私は旅行中ぼられたことがあります。道路状況が悪く車優先社会なので、十分に気をつけないといけません。学内はととても安全でした。（中国）
- 夜の一人歩きやタクシーに一人で乗ることは控えた方がいいです。また、日本にもニュースで流れるように、テロ事件もたまにおきます。大きな選挙や政治的な大きな動きがあるときは、人の集まる場所へ近づかない方が身のためです。寮はセキュリティもしっかりしていて安全です。（タイ）

短期交換留学

<特徴>

- 派遣先は、協定校であるイギリス・リバプールジョンモーズ大学とニュージーランド・ユニテック。平成20年度から派遣実施の新しいプログラムです。
- 留学援助金が40万円支給されます。
- 休学せず、「在学生」として留学します。
- 本学に学費を納入し、留学先での学部授業料は免除となります。
- 留学先で修得した単位を、条件のもと単位換算することが出来ます。
- 留学制度が「全学部」対象のプログラムであることから学部枠を設けてあります。どの学部にも所属していても留学の機会を得やすい環境です。
- 1セメスターの留学となり、派遣はニュージーランドが選考試験翌年の2月～、イギリスが9月～と時期が異なりますので、自分のカリキュラムや都合によって留学することができます。



プログラムの紹介

1982（昭和57）年にアメリカ・モンタナ州と熊本県が姉妹提携を結ぶと同時に、本学もモンタナ州の諸大学提携を締結しました。その後1983年の春からキャロル大学に2ヶ月間の短期留学生を派遣したのが始まりです。

2007（平成19）年3月をもって短期派遣留学制度は終了しましたが、2008（平成20）年度からは「短期交換留学」制度として生まれ変わり、1セメスターの派遣となりました。



派遣先大学での勉強

イギリス・リバプールジョンモーズ大学では TOEFL スコアにかかわらず学部授業を受講することになります。また、夜間には、留学生向けの英語クラスが準備されています。ニュージーランド・ユニテックで学部授業を受けるには、TOEFL-PBT で550点（TOEFL-iBT80点）以上の正規スコアが必要です。そのレベルに達していない場合、レベルに応じた語学コースを受講することとなります。



派遣先の様子

イギリス・リバプールジョンモーズ大学は、熱狂的なサッカーファンが多くビートルズの出身地として有名なリバプールに位置しています。リバプール市の人口は約45万人で、かつては奴隷貿易港として栄え、2004年に世界遺産に登録されました。世界トップクラスの美術館やビクトリア時代に建てられた建物など、当時の繁栄ぶりを目にする事ができます。2つの大聖堂でも有名です。リバプールジョンモーズ大学は、1825年に創立された国内最大の大学の一つで、約24,000人の学生が200を超える学士・修士課程で学んでいます。

ニュージーランド・ユニテックは、“City of Sails（帆の街）”という愛称のあるニュージーランド最大の都市オークランドに位置しています。ヨットレース「アメリカズ・カップ」が世界的に有名なオークランドは人口100万人を超え、経済の中心地として繁栄しています。ユニテックは、職業訓練をする専門学校的側面と大学としての学術的側面を合わせ持つ国立の教育機関です。60カ国を超える約2,000人の留学生を含む、1万6,000人以上の学生がユニテックで学んでいます。

短期語学

ホームステイプログラム

<特徴>

- 派遣先は、協定校であるオーストラリア・ラトロープ大学とニュージーランド・ユニテックです。
- 援助金が10万円支給されます。
- 英語が苦手な人に参加しやすいよう、選考において語学力試験は行われません。
- 引率がつくので、渡航の際も安心です。
- 学部枠を設けてあります。どの学部にも所属していても留学しやすい環境です。また、このプログラムは大学院生も対象としています。
- 春期休業中の2～3月に約4週間派遣されます。



プログラムの紹介

2003（平成15）年度からスタートし、今年度で5回目となる短期語学ホームステイプログラム。留学をするには自信はないけれど海外経験をしてみたい、英語が苦手だけれど勉強したい、という人向けのプログラムです。このプログラムには引率がつき、語学力に関係なく英語を学ぶ意欲のある人を派遣したいという主旨から、選考の際には英語の試験は行われません。

派遣先ではホームステイをしながら、協定校付属の語学学校でレベルに応じたクラスで英語を学ぶことができます。



派遣先大学での勉強

渡航後、レベル分けのテストが行われます。その結果に応じたクラスに入り、他国の学生達に混じって英語を学びます。ホームステイ先では英語のみの会話となるので、参加者は必死にコミュニケーションをとることで、英語でのコミュニケーション能力が伸びているようです。



派遣先の様子

オーストラリアコースの派遣先は、オーストラリア第二の都市であるメルボルンにあるラトロープ大学です。オーストラリア連邦ができてから1927年まで首都であったメルボルンは、オーストラリアで最も英国風と言われる歴史の重みを今も残す優雅な街です。人口は約370万人で、The Economist 誌の「世界で最も暮らしやすい都市」の1位を2002年と2004年の2度、獲得したことがあります。ラトロープ大学はメルボルンの郊外に位置する国立総合大学です。6つのキャンパスから成り、各キャンパスに充実した研究施設が整っています。国際協力にも力を入れており、世界40カ国以上との交流があります。

ニュージーランドコースの派遣先は、オークランドのユニテックです。詳細は短期交換留学の紹介をご覧ください。

南半球に位置する両大学とも派遣時期が晩夏から初秋にあたり、過ごしやすい気候です。協定校であるラトロープ大学とユニテックの広大なキャンパスの一角に位置する付属の語学学校で、自分のレベルに応じた英語教育を受けることができます。また、広大なキャンパスにはシャトルバスが巡回し、図書館やコンピューター室といった施設をはじめ、様々なレストラン・カフェテリア、銀行、郵便局、病院、映画館、ブックストア、スポーツジム等、両大学とも大学の施設が充実しています。

初めての海外生活

社会福祉学部 第二部社会福祉学科 4年 ^{さが ふじたくみ} 下り藤卓実
【2006年8月～2007年5月アメリカ・モンタナ州立大学に交換留学】

夢と希望と情熱だけを胸に日本を立ち、10ヶ月間モンタナ州ボーズマンにあるモンタナ州立大学に留学しました。

まず、苦勞したこととしてはやはりネイティブとの会話です。英語圏で生活をするということは、英語を聞き、理解し、返答するという事です。ただ英語の参考書を開き、何も話すことなく机の上でもくもくと一人で勉強するのは大違いです。最初は誰と会話しても、何が自分に対する質問なのか、それとも彼らの独り言なのかほとんどわからずとても苦勞しました。人と話すのが怖くなり、いっそのこと誰とも話さずに勉強だけしておこうと思ったこともありましたが、それではダメだ！と自分を奮い立たせて積極的に英語を使うようにしました。カフェテリアで食事の時、一人や二人でご飯を食べてる人を見つけてそこに行き、「こんにちは！一緒に食べてもいい？」と話しかけ一緒に食事をして友達になるという行動を最初の頃よく実行しました。それをきっかけに友達を増やし、学校や寮で会う度に会話をし、仲良くなった友達とは休日もよく一緒に遊びました。そうやって、英語を使う場・時間を自分で努力して増やして英語に慣れるようにしていきました。モンタナの人たちはとても優しく、モンタナの売りである大自然のように心が広い人ばかりだったので助かりました。

学校ではもちろん英語の勉強も頑張りました。授業に宿題に予習に復習、本当に大変な毎日でしたが、平日と休日のメリハリをつけてこなしました。キャンプやハイキング、魚釣りやウィンタースポーツなど日本では体験できないようなたくさんのおもしろいことをモンタナで思いっきり体験することができました。モンタナで過ごせたからこそ、英語だけでなく人間的にも大きく成長できました。これからもモンタナでの生活・経験を忘れずに前進し続けようと思います。



週末、友達とよく行った魚釣り

私がカナダで得たもの

外国語学部 英米学科 4年 ^{いりえ ゆめこ} 入江 夢子
【2006年9月～2007年4月カナダ・セント・メアリーズ大学に交換留学】

私は留学に行く前は、TOEIC600点しか持っていませんでした。長年英語を勉強してきたにも関わらず、スピーキングがとても苦手でした。英語を躊躇せずに話せるようになりたいと留学を決意しました。ところが、いざ8ヶ月経て帰ってきてみると一番伸ばしたかったスピーキングは残念ながら行く前とあまり変わらないかなあと感じています。

私は前期に語学学校に通い、後期に大学の授業だけ履修しました。「語学学校を卒業して大学に行く」という目標を立て、ひたすら与えられた課題に取り組みました。しかし、スピーキングを改善したいという自分の思いとは裏腹に、リスニングのスキルのほうが身についたと思います。TESL入学時は授業中に聞き取れないことが結構あったのに対し、帰る頃には大学でも授業が聞けるくらいにはなっていました。帰国前にTOEICを受験したのですが200点程上がっていました。リスニングのためにCBCなどのニュースを聞いていたくらいで特に勉強していなかったのに成果が出て嬉しかったです。

英語は伸びなかったけれど、精神的に大きく成長できたと実感しています。日本にいたときは一人で何もできない、自分の意見もはっきり言えないような感じでした。カナダでいったい何回「シャイ」だと言われたか数え切れないほどです。そんな私でも授業で発言できました。履修登録などの手続きができました。これらのことは簡単なことだけど海外だとちょっと難しいです。少しずつの日々の積み重ねが自信に繋がっていくんだと思いました。

この留学を通して色々なことを経験し本当に多くのものを得ることができました。勇気を出して留学に挑戦してよかったです。すばらしい機会を与えてくださった先生方や両親、支えてくれた友達に感謝したいと思います。ありがとうございました。



レベル6のクラスメートと（筆者は前列左から2番目）

出会いの地、第2の故郷「深圳」

大学院 国際文化研究科1年 ^{はたなか ゆうき} 畑中 祐紀

【2006年3月～2007年2月中国・深圳大学に交換留学】

まだ朝夕の冷え込みの厳しい、2006年3月1日、午前5時、私は故郷熊本を離れ、深圳大学に到着したのは、15時間ほど経った午後7時（日本時間午後8時）だった。深圳留学当初、私たちが一番困ったことは、深圳特有の広東訛りの中国語だった。深圳で1年過ごして帰国した今なら、全く問題ないが、当時は方言訛りの中国語どころか、訛りの全くない、中国のテレビでニュースキャスターが話すような綺麗な中国語でさえも、所々、聞き取れないようなレベルの私には、大変な問題であった。例えば、買い物をする時でも、広東語は「zhi,chi,shi」の巻舌音（舌尖後音）が「zi,ci,si」の舌尖前音に変化する為、「4元（普通語・広東語共に発音は「si kuai）」と「10元（普通語では「shi kuai」だが広東語では「si kuai）」を聞き分ける為には、声調だけで判断するしかないのだが、留学当初は、そんな微妙な声調の違いなど聞き分けられるはずもなく、いつも買い物に行くだけで、疲れて帰ってきていたのを覚えている。そんな、私たちをサポートしてくれたのが、当時の熊本学園大学の交換留学生であった、贾嘉と张小燕であった、彼女たちが熊本学園大学に渡航するまでの1ヶ月間、様々な面でお世話になった。

深圳大学の留学生寮は、様々な国から留学に来ている学生が住んでおり、寮では中国語よりも、英語、韓国語を話す機会が多かったように思える。

休日になると、電車で2時間くらいの距離に位置する、香港に遊びに行ったり、少し長めの休みである、労働節や国慶節には、桂林や成都、海南島にまで足を伸ばしたりもした。

広東訛りの中国語や、夏は暑く、意外に冬は思ったよりも寒いと言う深圳特有の気候と、少々の大気汚染を除けば、深圳市は中国であって中国にいるような感じを全く感じさせない、愛すべき大都市だ。中国、深圳の地で知り合えた沢山の世界各国の友人、先生、また、それらの人達と作った、掛け替えのない思い出を、私に与えてくれた深圳の街は、私の「第2の故郷」と言っても過言ではないかも知れない。近い将来、また必ず訪れてみたい場所である。最後に、熊本学園大学国際交流センターの職員の皆様、深圳大学留学生部の職員の方々を初めとする、1年間私たちの留学生生活をサポートしてくださった、全ての方に、改めて厚く御礼申し上げる。



深圳の中国民族村にて、交換留学生仲間と（筆者は左端）

留学で得たもの

外国語学部 東アジア学科4年 ^{きたしま だいすけ} 北島 大介

【2006年3月～2007年2月中国・北京第二外国語学院に交換留学】

私は北京第二外国語学院に約一年間留学しました。向こうに行ってからすぐクラス分けのテストがありましたが、テストが筆記のみだったためか、私は自分にとってレベルの高いクラスに配属されました。初めは先生の説明など所々しか聞き取れなかったもので、毎日予習をして授業に臨んでいました。留学するまで予習などろくにしていなかったこともあって、毎日あんなに必死で予習していたことに自分でも感心します。それほど追い込まれていたのかもしれませんが。そのときは二年生の夏の海外研修で中国語だけの授業を経験して大変さをわかっているのに留学までの間、自分は何をしていたのだろうと情けなく思いました。

生活のなかで大変だったことはルームメイトとのコミュニケーションでした。留学したての頃はなんとか自分の知っている中国語を使ったり、お互いにわからなかった時は英語で言ってみたり、それでもわからないときは辞書で調べたりするなどしてコミュニケーションをとっていました。アメリカ人だったのですが、彼はすでに中国語をまるで現地人のように話すことができたので、慣れるまでは自分の会話力の無さで気まずくなることもありましたが、彼はそれでも積極的に話しかけてくれました。授業は昼までだったので、昼からは知り合ったカナダ人とはほぼ毎日テニスをしていました。寮にはいろんな国の人が生活していたのでいろんな文化に触れることができました。自分と違う国の人と触れ合うのは大変すばらしく、将来はいろんな国で働けるような仕事がしたいと思うようになりましたし、また海外へ行く機会があるなら何度でも行きたいと思うようになりました。

留学して中国語が話せるようになったことよりもいろんな国の人と触れ合えたこと、一緒に同じ時間を過ごせたこと、世界に目を向けて考えるようになったことが留学での一番の収穫だったと思っています。



万里の長城にて

ドラマでは見られない韓国

こばた あやか
経済学部 経済学科 4年 小幡 綾加

【2006年3月～2007年2月韓国・大田大学校に交換留学】

経済学科に籍をおいている私が、わざわざ韓国に留学してきたというのはちょっと珍しい話であるようです。韓国にいたころ「専攻は経済学です」と自己紹介をすると、よく聞き返されたものでした。きっと間違えたと思ったのでしょう。

その留学先、大田広域市は都会すぎず田舎すぎず、とても居心地のいい場所でした。私の出身地である大分県と同じ、ワールドカップの試合会場となったサッカースタジアムもあります。交通の要となる場所でもあり、ソウルや釜山へ行くのも便利な大きな駅があります。ただ大学が山の中にあって、何度も急な坂を往復しなければならないのは大変で、買い物をするにも一苦労でした。私たちの住んでいた寮はとても大きく、きれいで住みやすかったのですが、毎日の食事はとても質素なものでした。慣れは恐ろしいもので、1年たつころには苦手だったスンドゥなど、ほとんどのものは食べられるようになっていました。たまの焼肉や焼酎は本当においしかったです。

大田大学校には日本語学科以外にもたくさんの学科があり、経済学科やコンピュータ工学科の授業を受講することができました。専門用語がたくさん出てきて大変でしたが、日本語の通じない学生とも仲良くなり、とても勉強になったと思います。ただ、エレベーターもない建物をあっちこっちへ移動するのは大変でした。

韓国で手にした一番の宝物といえば、やはり友人たちです。ホームステイでは川で遊んだりして、韓国の自然を満喫することができました。日本の話をすると楽しそうに聞いてくれ、韓国のこともたくさん教えてくれました。みんな勉強熱心で、夢があって、彼らの姿には学ぶものがたくさんあったと思います。韓国は何度でも行きたいと思える素敵な国でした。



熊本学園大学国際交流館にて韓国からの留学生達と（筆者は右端）

人生を変えたベトナム留学

たかぎ
社会福祉学部 福祉環境学科卒業 高木あゆみ

【2006年2月～2006年6月ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校に交換留学】

私がベトナム留学を決意したのは、今後の自分の人生において大きな意味があると思ったからです。「途上国」と言われる場所で感じることを大切にしたい、そこでの生活を楽しみ、充実させようとの思いを胸に渡越しました。不安はゼロに近く、東南アジア界隈で一番難しいと言われるベトナム語を15時間勉強した程度で、平気で現地に入ってしまったほどです。初めて見るベトナムの地は私をワクワクさせ、そのワクワクは異国で生活する私を随分と成長させてくれたと思います。

言葉が分からないという体験をこれまですることはあまりありませんでした。しかし全く分からない！買い物もできない状態です。ベトナムでの買い物は、ほとんど言い値で、値段交渉が不可欠です。しかし言葉のわからない私は不当な価格だと分かっているにもかかわらずありませんでした。悔しい思いをすることも多かったです。心地よく生活するために言語の習得に力を注ぎました。おかげでたった4カ月でも簡単な会話はできるようになりました。言葉や文化が解ってくると、どんどん生活はしやすくなり、そこを「異国」ではなく「居場所」として感じるようになりました。

友人や先生には本当に助けられました。ベトナム人の心の温かさや家族を思う気持ちに感動することは多く、学ばせてもらいました。経済的な豊かさは、日本と大きな差がありますが、現在の日本が学ぶべき心があると感じました。また、戦後約30年のベトナムは、私の父母の世代の生活を見せてくれたように思います。

ベトナムに行くことを決めた自分や、導いてくれた周りの方々にとっても感謝しています。この体験がない自分を想像できないくらいです。

バイクが行きかう
ベトナムの風景



夏には大人気のさとうきびジュース（筆者は右端）

えいご漬けの生活

外国語学部 英米学科 4年 ^{やまもと} ^{さとし}
山本 聡志

【2007年2月～3月イギリス・リバプールジョンモーズ大学に短期派遣留学】

私の留学の動機は、とにかく英語のレベルを上げたいということでした。生きた英語を24時間聞き、自然な語彙を獲得し、よりネイティブらしく話せるようになろうと心に決めて日本を旅立ちました。

この目標が達成できたかどうかは別にして、為になったと感じていることが2つあります。

1つ目はもちろん大学の授業です。私は4科目授業を取っていて、その中でも文体論は毎週楽しみにしていました。この科目は本学でも勉強していたのですが、専門的な単語が多く調べるだけで一苦勞でした。しかし受講している学生も10人に満たない程度だったので、先生も私たちに気を使ってくれ何とかついていくことが出来ました。留学生を対象とした英語のクラスもあり、わざと他の国の学生の横に座り積極的に会話をする努力もしました。

2つ目は現地です。友人との時間です。大学には日本に興味を持っている学生も多く、週に1回“Japanese Society”というパーティーを開いていました。そして私は部屋をシェアしていたので、ルームメイトとパブに行くこともしばしばありました。もちろん会話は英語で、分らない表現はいつも確認していました。彼らは友人であり、先生でもありました。

休日はリバプールの町で過ごすことが多かったのですが、数回ロンドンに行き劇を見ることができました。観劇が趣味なので本場でバレエや劇を見れたことは、ここ数年で一番興奮した出来事でした。

編入生の私にとってこのプログラムに参加するのに何のためらいもありませんでした。学生の時しかこのような経験ができる機会はないと思います。もっと勉強しておけばよかったと思うこともあります。留学での経験が活かされていると思うことがたびたびあるので価値のある留学であったと感じています。



見送りに来てくれた友人のGazとLime Street駅にて

短期語学ホームステイプログラムに参加して

商学部 ホスピタリティ・マネジメント学科 2年 ^{ますだ} ^{さなえ}
益田 早苗

【2007年3月ニュージーランド・ユニテックにて研修】

私がこのホームステイプログラムに参加しようと思ったきっかけは、高校時代に大学説明会でもらったパンフレットの中に書かれてあった、ホームステイプログラムがとても魅力的だと感じたことからでした。そして、大学に入学し海外という所がどんなものなのか、自分の目で見たいと改めて思うようになり、参加を希望しました。

私は、前から英語が好きでも話せるというわけでもなく、参加することが決まってからも不安で一杯でした。それは、現地に着いてからも変わらないだろうと思っていましたが、実際に到着すると一緒に参加した人たちと別れ、ホストファミリーと英語のみの会話をする事になり、不安だと思ふ暇もなく必死にコミュニケーションをとろうとすることで精一杯でした。ホストファミリーは、私が言う簡単な英単語などから伝えたいことを理解し、私にあった速度で話してくれ、英語を楽しむことを教えてくれました。

またクラスではいろんな国籍の人たちがいて、英語という共通の言語でディベートをする中でお互いに本場の文化を知ることができ、英語を学ぶのではなく英語で新たな知識を学ぶことができました。

このホームステイプログラムで、例え言葉が上手く通じなくてもジェスチャーやスマイルでも相手は受け入れてくれるということがわかりました。

また、英語を学ぶことは大事だと思いますが、生きた英語の中で、積極的に話すこと、行動することによって英語を楽しむことも大事だと感じました。

また、私が行動しないかぎり何も変わらないということを感じ、自分自身を見つめることができたと思います。

これからは、英語を学ぶとともに積極的に行動し、このホームステイでの経験を生かしていきたいと思っています。



クラスメートと（筆者は左から2番目）

留学を考えているなら熊本学園大学へ！

イ ス ウォン
李 秀 源

【2006年3月～2007年2月韓国・大田大学校交換留学生】

こんにちは、皆さん。私は2006年の1年間、熊本学園大学の留学生だった韓国の大田に住んでいるイ・スウォンと申します。もしあなたが日本への留学を目指している方なら、私の短い留学経験の話聞いてみてください。

皆さんと同じく自分も最初は留学について何かの漠然とした不安を持っていた学生でした。でも、熊本学園大学に来てからすぐ自分の不安は不必要な物だった事を知りました。熱心な先生と職員達の努力があったからです。外国人学生は日本語が下手なのがあたり前な事なので、それを十分に配慮し、レベルに合わせて分けた日本語の授業が用意してありましたし、また日本語以外の専攻授業も各先生が細かい所まで世話をしてくださいました。そのお陰で自分の日本語の実力は普通でしたけど、日本で1年間を勉強するには特に大きい不便を感じた事はありませんでした。滞在していた便利できれいな寮もまた管理人がお父さんみたいな愛情で面倒をみてくださったお陰で、むしろ韓国よりも楽しかったです。留学生に一番大事なのはやはり勉強なのですが、学園祭、クラブ活動、寮の皆との旅、ホームステイなど皆さんの余暇のための準備にもいろいろに備えています。自分も自分なりにたくさんの事を経験して帰りましたが、もっと経験できなかった事がすごく残念で今にでもその時に帰りたいくらいです。

熊本学園大学へ留学にいらっしゃると、皆さんは単なる日本の大学の1年ではない日本の1年を感じて、いい思い出を持って国に帰られると思います。熊本学園大学はいろんな事を誠意をこめて用意しています。この大学の教育サービスに皆さんの努力を加えれば、その果実は皆さんが生きて行く未来において、まさに大きな財産になるに違いありません。



留学生仲間と（筆者は右側）

Epilogue

クリスタル ゴンザレス
Crystal Gonzales

【2006年9月～2007年7月アメリカ・インカーネットワード大学交換留学生】

When I studied abroad at Kumamoto Gakuen Daigaku, I had a once in a lifetime experience that I will never forget. Ever since I was young I wanted to live in Japan and my stay in Kumamoto exceeded my expectations in every way. I was able to learn so much about the Japanese language and culture in such a short time. Learning in a classroom in America twice a week for a few years never compared to just a few weeks in Japan. I learned Kumamoto was a lovely city that never felt too small or too overwhelming and the citizens were so friendly to me. The people I meet in Japan have become lifelong friends and the memories I made were some of the memorable I have ever had. I will never forget waiting in line to try on kimono at Kumamoto Castle or riding my bicycle downtown in the rain. I was able to study tea ceremony in club, live with a Japanese family, and sing in Japanese at karaoke. It was a sweet experience that made me see in new ways and live every moment to the fullest. I cannot wait to go back again.



お城祭にて（熊本城）

三つの動機

パーリーナー・ウンスッカセーム

【2006年4月～2007年3月タイ・チュラロンコーン大学交換留学生】

私は日本について何もわからないまま、2006年春に日本に到着しました。私の周りは珍しいものばかりでした。「どうして私はここに留学することにしたっけ。」自分に聞いたら、その動機が三つありました。「持ちたい、理解したい、そして、なりたい」という動機です。

何を持ちたいかと言うと、いうまでもなく「知識を持ちたい」のです。でもそれは私だけの願望だけではなく、ほかの留学生も同じように考えるだろうと思います。わたしにとってここに留学したのは船に乗って海に出るようなものです。知識の海を旅行したり、知識という魚を取ったりします。私はほかの漁師と同じでたくさん知識という魚を取るようになります。網にかかった魚は山ほど取れた日もあるし、一匹たりとも取れなかったこともあります。何匹取れるか自分の腕と網次第です。この航海ではいつもうまくいくわけではなく、時々天気が悪くて曇って波も強くなる上、台風が来ることもあります。その台風は「漢字」という台風です。この台風の恐ろしさは「訓読み」と「音読み」という強い風に変形することです。いつ、どの風が直撃するかははっきりわからないので自分の経験だけに頼らなければなりません。気候の不確かさ、特に「漢字」という台風のために、途中で航海をあきらめた人もたくさんいます。それでも自信と努力さえあれば、漢字という台風のパターンをしっかり観察して覚えてその台風に負けないうように頑張ります。

次の動機は「理解したい」です。日本人の生活と文化を理解したい、つまり、もっと深く日本人の考え方を理解したいということです。ある日、日本人の友達と一緒に阿蘇山を旅行して戻った時、私が熊本の歴史について知らないせいで、不思議な質問をしてしまいました。「熊本では昔熊が多かったですか。」と尋ねました。そういう質問をしたのはタイの考え方です。タイではその場所は昔ある木とかある動物が豊かだったら、その木や動物の名前を町や道の名前につけるのです。

ここに来て以来、お花見をはじめ日本の伝統的な活動に参加して日本の文化に接する機会がありました。熊本城にお花見に行ったのは私の初めての経験です。私は「花より団子」と言うことわ

ざ通り、桜の美しさを見ないで、美味しいお弁当をひたすら食べてしまいました。それに火の国の祭りを、私も楽しみにしています。日本の文化のほかに私はほかの国の文化もわかるようになりました。私が住んでいる寮にはいろいろな国から来た留学生がいます。異文化を勉強できる場所は寮の台所です。ある日私が人参の皮をむいていると、中国人の友達私を疑わしそうに見ながら、「人参の皮は栄養がたくさんあるよ。むいちゃってもったいないよ。」と言いました。それにちょうど通りかかったベトナム人の友達も同じように言いました。でも寮に遊びに来た日本人の友達は「日本人も人参の皮をむくよ。」と言いました。これは異文化の一番いい例の一つでしょう。

最後の動機は「なりたい」です。答えは熊本学園大学の学生になりたいということです。これはもう実現しました。ここに留学して以来周囲の日本の皆さんに大切にさせていただいたので、ホームシックはなくなりました。国際交流センターの皆さんや先生方のおかげで、ここでしあわせに暮らしています。本当にありがとうございます。これからの1年間私は皆さんからいただいた力で頑張っていけると思います。来年の3月に帰国する時は、今まで学んだことやこれから知る素敵なことをお土産として両親や親戚に話したいです。

(2006年冬記)



寮で行われた交換留学生送別会にて（筆者は中央）

懐かしい熊本

韓国・大田大学校 食品栄養学科 教授 ^{ワン ス キョン} 王 秀 瓊

【2006年3月から1年間、交換教員として受入】

熊本で過ごした去年の1年間は私の家族皆にとっても楽しい思い出になりました。去年ずっと一緒にいた3人（私と夫そして次男）はもちろん、1・2回ぐらい来てくれた残り3人（母と長男と娘）も熊本を懐かしんでいるのです。

今ソウルには真夏の雨が降っています。私たちが熊本に着いた日にも雨で雨の日が多かった去年の春を思い出します。空港からマンションに行く時見た周りの田園風景はアメリカ・ミズーリ州のコロンビアと言う静かな都市と似ていて10年前アメリカでの生活の思い出に耽っているのです。繁雑なソウルの生活に慣れていた家族皆は熊本の人々や自然がくれた余裕のある温かい趣きにすぐほぐれました。なによりも韓国の日常から離れた異国生活の楽しさで熊本での1年間でさらにいい思い出になったのではないかと思います。雨の音を聞きながら熊本の思い出をここに書きます。

一つ。蛍祭り

経営学科の船木先生のご配慮で旭志の6月の蛍祭りに行った経験が忘れられません。夜になって小川のほとりの森を覆っていた蛍の光がまるでクリスマスツリーのようにきらきら明滅する光景は実に壮観でした。完全に魅了された私の家族は3度もまた行くことになったのです。うるさい宣伝や装飾などはせずにひたすら生態系を守るため村の皆さんが一心で努力してきたことを感じてとても感嘆しました。

二つ。食事の招待

熊本ではせっかく余裕ができたので、韓国から持ってきた塩辛と熊本の新鮮な野菜を材料にして何種類かのキムチを作ることができました。ビビンバやサムゲタン、韓国の味噌汁やチヂミなど韓国の伝統的なメニューで国際交流センター事務室の皆さんをはじめけっこう多くの方を食事に招待できたことは私にとってとても幸せなことでした。

三つ。伝統と文化そして豊かな生活

家族皆がカトリック信者なので毎週小さいが古めかしい手取という教会に行きました。その教会は上通の近くで、日曜日になるとミサの後お昼を食べて辺りを見まわしたりショッピングしたりする楽しみがあったのです。特に施設もいろいろ展示会が見られた現代美術館は夫とよく行っていた所でした。そして熊本国際交流会館の外国人向けの日本語講座を学園大の国際交流センター事務室の方に紹介してもらって日本語の勉強もできました。そこでボランティアしていた人々はまじめで熱心でした。日本についたばかりの頃YWCAのひな祭り行事に参加して日本の伝統的な茶道や踊りを体験してみました。そのとき次男に撮ってもらった写真はなかなか良くて名作の一つとして今もリビングに置いてあるのです。

熊本で一年間暮しながら感じたのは過去のことを大切にせず不便なことは改善しながら衣食住全般にわたって生活の質を粘り強く高めているのだなということでした。「ゆっくり歩いても牛の歩み」という韓国のことわざにぴったりではないかと思えます。

四つ。九州旅行

水俣市は私の専攻の栄養学に関する水俣病について興味を持っていた所に、ちょうど水俣の民間博物館と海辺公園を見学する機会がありました。その地域に発生した公害による疾病を羞恥と思わずにむしろ水俣を公害病の研究の中心地に変えていることが分かりました。あれこそ失敗や危機を脱け出して機会に変える良い事例になるでしょう。

活火山の阿蘇山はとても魅力のある山でうちの家族もよく行ったものです。特に大観峰から菊地溪谷に続く阿蘇の外輪山の道はすてきなドライブコースでした。季節によって着替える阿蘇山の景色が一目で見下ろせられて大陸的なスケールを感じられました。

そして南阿蘇の終点である高森までの電車旅行も、異色の電車や阿蘇山が目に見える田園風景も懐かしいです。

天草の海岸線沿いのサンセットドライブはとてもロマンチックでしたし、自然のままイルカを見ることができるイルカウォッチングクルーズも珍しい経験でした。そして黒川と湯布院のかわいくてきれいに整えられてある温泉の村は何度もまた行きたいところなのです。特に湯布院で朝の金鱗湖の水面から燃える陽炎を見ながら飲んだコーヒーの思い出はいつまでも忘れられないと思います。

柳川では、船乗りさんの親切な説明を聞きながら楽しんだ水路沿いの風景やうなぎ井、白秋という詩人の生家などの思い出があります。そして雲仙と別府への温泉旅行や島原のコイの村、長崎の原爆中心とその記念館のグラウンドゼロ、佐世保のハウステンボスや北九州で目の前に見える本州を見ながら散歩したことなどが懐かしいです。

去年はまた私と夫にとって結婚30周年の記念の年でもあったので、熊本で過ごした1年間はさらに特別でした。そして私の母国語である韓国語を教えたことは新鮮で大切な経験でした。私の授業の学生達が韓国語であいさつしてくれたり授業で習った歌を歌っていたり一緒に写真に入ろうと誘ったりするのを見て、私と夫は心が満たされる気持ちで大きな喜びを感じました。

そんなことができたのは何より中野委員長と国際交流センター事務室の皆さんの温かいご配慮のおかげだと思います。ここに改めて感謝の言葉を申し上げます。いつか熊本か大田か、それともソウルでまた会える日をお楽しみにしています。



ひな祭り

ホームステイ体験（ホストファミリーと留学生）

きっかけは韓国の両親です

外国語学部 東アジア学科3年 さかた じゅんこ
坂田 純子

「純子、たくさん食べなさい。」韓国のお母さんは、毎日美味しいおかずと茶碗に溢れるほどのご飯を出してくれました。「純子はまだ赤ちゃんだな。」私が日本が恋しくて寂しいと言うと、韓国のお父さんはそのように言って慰めてくれました。

私が今回ホームステイを受け入れたいと思ったきっかけはそこにあります。私は韓国で1ヶ月の間ホームステイを体験しました。私は韓国のお父さん、お母さんにとっても良くして貰い、また2人は私を本当の娘のように温かく接してくれました。私が韓国のことが大好きになったのは、お父さん、お母さんの出会いがあったからです。韓国の両親に強く心を打たれ、私もホストファミリーをしてみたいと思いました。またこのことが、韓国の両親への恩返しにもなると考えました。私の（日本の）両親も同じ考えでした。

さて、留学生のソンウンが来る日、単身赴任中の父、また福岡にいる妹も駆けつけ、久しぶりに家族で食事をしました。意外だったのは、父が1番楽しそうだったことです。行きつけの居酒屋に連れて行って、自分の友達にソンウンを「我が家の娘」と自慢げに紹介していました。ソンウンにとっては、そこは不思議な世界であったことでしょう。ほんのり酔ったおじ様方が、ぱりぱりの熊本弁でまくしたてているのですから。翌日は父がはりきって朝食を作っていました。

日本の両親は何度も「困ったことがあったら、相談に来るんだよ。」と言っていました。韓国の両親が、私に言ってくれた言葉です。これからも、お世話になった韓国の人達へのお礼の意味をこめて、機会があればホストファミリーを引き受けようと思っています。



ソンウンと友達と熊本城でお花見をしました（筆者は左端）

私の大切な友達の純子

ジン ソン ウン
陳 成 恩

【2007年4月～2008年3月韓国・大田大学校交換留学生】

「純子」という日本人の家でホームステイをすることになりました。純子と私の出会いは偶然の出会いでした。知り合いの先輩が昨年熊本学園大学の交換学生で、その先輩と純子は仲が良かったそうなのです。

純子が寮に迎えに来ました。初めて顔を合わせるのに恥ずかしかったです。純子のお母さんにバスと電車に乗る時使うように交通カードをもらいました。お母さんの暖かい心で私の心も暖かくなりました。純子の家に到着して授業の時間に習ったコタツがあったのでふしぎな気がしました。純子のお母さんが仕事だったので、純子が私のためにおいしいご飯を作ってくれました。とてもおいしかったです。お母さんが帰って来ました。初体面とは思えないほどの親しみを感じました。お母さんがお風呂にお湯をためてくれてお風呂に入りました。気持ちがよかったです。そしてお母さんは布団を準備し、その布団を暖かくしてくれたのでよく眠れました。次の日の朝にお母さんが作ってくれた朝ご飯を食べて、純子と純子の友達と一緒に弁当を買って熊本城に行きました。熊本城と桜の景色がとてもきれいでした。桜を見ながらお弁当を食べたので一層おいしかったです。見物した後、純子の家族と一緒に食事をしました。みんな優しかったのでとてもよかったです。お父さんが私を娘と言ってくれたのでとても嬉しかったです。そして幸せな家族と一緒に過ごしたので私も本当に幸せでした。次の日の朝にはお父さんがとてもおいしい朝ご飯を作ってくれました。お父さんに感謝しました。私にとってとても幸せなホームステイでした。お母さんとお父さんのおかげで娘のように生活しました。短い時間でしたが、絶対忘れません。たくさん大切な思い出を作ることができました。ありがとうございました。お母さん、お父さん、妹さん、そして私の大切な友達になった純子。



ホームステイの家族と（筆者は左から2番目）

フィールドトリップ体験

阿蘇へのフィールドトリップ

経済部 経済学科 2年 セン 銭 トウ 涛

天気の良い4月の土曜日、国際交流センターのスタッフと留学生達で阿蘇烏帽子岳登山のため、大学へ集合しバスに乗って出発しました。

バスの中で隣に座っている友達を紹介し合い、面白くてあっという間に阿蘇に着きました。青い空にピンクの八重桜がいっぱい咲いていて、そして、緑に溢れている山に「四月の雪」、本当に珍しい景色でした。いよいよ登山開始です。山は自分の足で一步一步踏みしめて登るもの。登るにつれて眺望が開け、途中でいろいろな植物などと出会うことができ嬉しかったです。一時間後やっと頂上に到着しました。山頂に登りきり、山頂の岩の上に立った時は、それまでの疲れが一気にふっとび、「やっと山頂についた」という嬉しさで一杯でした。頂上の噴煙している火口を見て素晴らしい「生きた阿蘇山」を体感しました。そこで先生や、いろいろな国からの留学生達は家族のように楽しくお弁当を食べたり、喋ったり、記念撮影したりして、仲良くなりました。

下山したときは、思っていたより坂が急だし、風は冷たいし、よく注意して行かないといけない。それなのに、皆さんは手を繋いでお互いに助けをもらって、無事に帰って来たので良かったです。天気もそれほど悪くはならず、山に登り下山することができ、とても良い経験ができたと思います。午後、また菊池温泉やお土産屋さんなどで楽しんできました。

阿蘇の美しい自然と親しんだし、勉強の疲れもとれたし、特にたくさんの友達もできて、とてもいい思い出になりました。



菊池の足湯にて

防災センター体験

Knowledge and Simulation at the Kumamoto City Fire Services Bureau

ダニエル シュワルツ
Daniel Schwartz

【2007年9月～2008年カナダ・カールトン大学交換留学生】

The Kumamoto City Fire Services Bureau (KCFSB) in Kumamoto City is both museum and firehall. The firemen there give informative tours, using wall displays and simulators to show the dangers of natural disasters and how to avoid serious injury if one should occur. At the KCFSB we felt what it was like to be in a building during an earthquake measuring 7 on the Richter scale. It was a fun, but sobering experience; the simulator was like an amusement ride, but let everybody know that the real thing would not be fun at all. At the KCFSB there is a room that simulates being in a smoke filled room. With all the lights off, and thick, smelly steam filling the room, the group had to find its way out. This was not easy, requiring teamwork and focus on everyone's part. The simulations were not only a highlight of the visit but also the most informative part as well. Since Kyushu is located in a region that can be affected by tsunamis, earthquakes, typhoons, floods, landslides and fire, it is important to be aware of the risks. Each disaster poses different risk, so knowing about each and how they are connected is crucial so panic can be avoided and damage minimized. The most important thing I learned at the KCFSB was that more than one natural disaster can occur after any single event. For example, after a typhoon, on top of wind damage and rain damage, there could be flooding, landslides and fires. For this reason, it is very important to visit the KCFSB and learn about how to manage in the event of a natural disaster. The KCFSB is a key resource, insuring that people in Kumamoto have access to information as well as a knowledgeable response team in case of disaster.



筆者は前にしゃがんでいる方の左側

体育祭体験

Sports Festival

ロバート パートランド
Robert Bertrand

【2007年9月～2008年7月アメリカ・モンタナ州立大学交換留学生】

Kumamoto Gakuen University's Sports Festival was really fun and exciting to take part in. The university that I come from does not have any kind of sports festival, so this was my first time doing something like this, and I was surprised at the number of students who came and competed. There were all kinds of events like the 100 meter dash, tug-of-war, and an obstacle course. There were also a few events that I had never seen before, like the mock cavalry battle. I competed in the obstacle course which was probably the strangest, but most fun obstacle course I had ever done. The obstacle course consisted of these weird tasks such as having to dig in a tub of flour for a candy using only my face, spinning with my forehead on a bat till I was dizzy, ridding a kiddy tricycle and many other things. And when I was not competing in my event I was cheering on my friends, both friends that I live with at the international residence and my Japanese friends. The whole day was a lot of fun and I really enjoyed competing against other students from Kumamoto Gakuen University.



筆者は前列左から6番目

お祭り体験

忘れられない あの夜 あの踊り

ヨウ カ
楊 華

【2007年4月～2008年3月中国・北京第二外国語学院交換留学生】

火山で知られる熊本では、毎年蒸し暑い日が続く8月に「火の国まつり」が行われています。特に今年は熊本城が築城されて400年目ということもあり、平年より特別盛大に行われました。留学生である私たちも、留学生チームのメンバーとしてお祭りに参加し、熊本の伝統的な祭りを体験することができ、いい思い出ができました。

祭りの当日、初心者私たちは熊本東南ローターアクトクラブの方々から、前もって準備してもらっていた浴衣を着せていただき、基礎的な踊りを教わりました。私たちは日本の伝統的な音楽に合わせて踊り、同時に浴衣の動きの美しさを知りました。

私は心の準備をしていましたが、本番では祭りの規模の大きさに改めて心を動かされました。参加者が大勢いるにも関わらず、全員が個々の役割を果たしており、チームワークも良くとれていました。その上、余計な動作や雑談などをする人もなく、全員が祭りの音楽、踊りに陶酔して、心を一つにしていました。この様子に、私はもう一度感動しました。日本は、この踊りのように、国民全体が心を一つにしているからこそ、天然資源に乏しいなどの厳しい状況を乗り越え、経済が急成長したのではないだろうか。これは私たち留学生だけでなく、中国を含めた多くの発展途上国が学ぶべきことではないだろうか。心が一つになれば何事もうまくいくのではないだろうか、と思いました。

私は今でも、「火の国まつり」の音楽を耳にすると、思わず踊り出してしまうことがあります。あの夜みんなの笑顔、みんなの姿、みんなの踊り、初めて会う人同士の心と心の通じ合いなどが頭に浮かんで忘れられません。今回、「火の国まつり」に参加させていただき、いい思い出を作ることができ、多くの方々、特に、熱心に踊りを教えてくださった熊本東南ローターアクトクラブの方々には心から感謝しています。本当に熊本へ留学に来てよかったと思います。



筆者は前列左端

インターンシップ体験

日系会社でのインターンシップ

コウ エイ ギ
廓 穎 儀

【2007年4月～2008年3月中国・深圳大学交換留学生】

二週間のインターンシップに、私は貿易会社についてのことをさらに理解し、一応取引の流れをつかみました。今回初めて会社に入りました。たった二週間でしたけど、自分にいろんな欠点があり、社会経験が足りないことも分かりました。今回の実習はたいへんためになりました。

K・タナカ・トレーディング株式会社は電池、時計、ケース、天然石装飾品、天然原石観賞石など、世界中から選りすぐりの商品を直輸入し全国約9500店の時計、宝飾、メガネの専門店やギフトショップへ直卸を行っています。私は今後貿易会社で働きたいので、K・タナカ・トレーディング株式会社で実習ができたのは本当に助かりました。願えばかなう。面接した一週間のと、その会社でインターンシップの機会をもらいました。

朝7時のまぶしい太陽からやる気ももらって、元気を奮い起こし、会社に行きました。8時頃会社に着いた時、社員はもうさまざまな準備に忙しくしていました。

国内で日本語しか勉強していなかったから、営業とか貿易とかさっぱり分かりません。毎日、海外営業部の楠木さんは根気よく貿易の基本知識を教えてくださいました。例えば、はじめて教えてくださいましたのは取引の流れです。まず、取引の条件（例えば、最初の注文単位とか、納期とか、商品の引渡し方法とか）を相手とちゃんと交渉しなければなりません。そして、一つ一つ確認したら、オーダーフォームやPI（Pro forma Invoice）を取引先に送

ります。次は、PIを訂正し、インボイスにサインしたら、出荷の準備をします。最後は商品の発送です。貿易の仕事は本当に複雑で、いろいろ知識が必要だと思います。

それに、丁寧に整理されたビジネス日本語や電話対応などの資料をたくさんもらいました。正しくて丁寧な敬語をすばやくに使えるのは接客の最も大事なことです。会社の利益と直接関係があります。敬語の勉強は難しく、いっそうな努力が必要だと思います。

もっと面白い経験は、自分でアクセサリをデザインしたことです。最初に想像して書いたデザインはおかしくて、手作りがなかなかできないと教えてくれました。そして、元の形をちょっと直してもらって、会社のデザイナーの指導の下で出来上がりました。

二週間の実習では、毎日違う認識や体験をもらいました。その上、自分の足りないところも見つけました。社長がおっしゃった通り、どう簡単に見えることでも、実行しにくいかもしれません。やってみないといろんなことが分かりません。今の私にとって、理論も経験も勉強すべきだと痛感しました。

今回もらった経験も手作りのアクセサリもいい思い出として大事にします。熊本貿易協会の方々やK・タナカ・トレーディング株式会社の方々、いろいろお迷惑をかけましたが、誠にありがとうございました。



初めて自分でネックレスを作りました

王剣の四川風麻婆豆腐

オウ ケン
王 剣
大学院 商学研究科 2年

「麻婆」とはあばた面のおかみさんの意味です。中国で昔あるあばた面の女性が有り合せの材料で来客向けに豆腐料理を作ったことから、この麻婆豆腐の名前がついたと言われて

います。

材料

合挽き肉	150g
絹豆腐	1丁
にんにく	少々
生姜	少々
ネギ	20g
豆板醤	大さじ1
料理酒	小さじ1
醤油	大さじ1
鶏がらスープ	400cc
塩	小さじ1程度
片栗粉	小さじ1.5
水	小さじ3



作り方

- 1 強火で油を温め、合挽き肉を加え中火で炒める。白くなったら、細かくみじん切り（または千切り）にしたにんにくと生姜を加え、香りが出るまでいためる。（約30秒～1分）
- 2 香りが出たら、酒を加える。
- 3 1で炒めたものをフライパンの端によせ、空いたスペースに豆板醤を入れて中火でいためる。（約30秒）
- 4 全体を混ぜ合わせ、醤油を加え更に弱火で炒める。（約1分）
- 5 豆腐を賽の目（1cm角程度）に切り、お湯に入れて約15秒煮て水につける。（冷えるまで2・3回ざるにあけて水をかえる）
- 6 4に5の豆腐を加え混ぜる。（中火）
- 7 全体が混ざったら強火にして、鶏がらスープを加える。沸騰したら中火で2分くらい煮て、味を見ながら塩を加える。（小さじ1程度）
- 8 水（小さじ3）を混ぜた片栗粉を、最初は半分の量を加えゆっくり混ぜる。よく混ざったら更に残りの半分を混ぜ、様子を見ながら残りを加える。
- 9 みじん切りにしたネギを半分加えて全体をよく混ぜ、火を消す。皿に盛って最後に残りのネギを上に乗らす。



アンドリアのツナロール

アンドリア コナーズ
Andrea Connors

【2006年度アメリカ・モンタナ州立大学交換留学生】

Casserole（カセロール）料理の一種で、私がよく作るレシピです。

材料

- A ツナ 170g
ホワイトソース 一缶
マッシュルーム（角切りに）
牛乳（ホワイトソースの缶を使う）
- B 小麦粉 2カップ
ベーキングパウダー ½ tsp
塩 ½ tsp
牛乳 ¾カップ
ショートニング ¼カップ
- C チーズ（コロコロ状） 1½カップぐらい

作り方

Bの小麦粉、ベーキンパウダー、塩をボールに入れてかき混ぜる。ショートニングを入れ、切るように混ぜる。ポロポロの状態になってきたら、3/4カップ牛乳を入れ、かき混ぜる。するとビスケットの生地になる。

もう一つのボールにAのツナ、ホワイトソース、マッシュルーム、そして牛乳を入れ、かき混ぜる。このソースを13×9インチサイズのガラスのオーブントースター用の皿に全部入れる。

カウンターの上に小麦粉を均一にふりかけ、ビスケット生地を10×18インチ、厚さは1/4インチサイズの長方形にのぼす。長方形の生地の上にバターをぬり、コロコロにしたチーズもぼらまく。10インチ側の端を約1/2インチ折り重ね、向かいの方をまく。すると円筒形になる。

その円筒を半分に切り、その半分を更に半分切っていく。全体が約3/4インチの大きさになるまで切る。最後にソースの入った皿に並べ入れ、180℃のオーブンで、20～30分ぐらい焼く。
※1インチ=2.54cm ※tsp=tea spoon（小さじ）



スティーブンの チョコレートケーキ ～母のレシピから～

スティーブン マクナリ
Stephen McNally
【2006年度イギリス・リバプールジョンモーズ大学交換留学生】

My mum always bakes this cake - it's easy! (because I've made it before, and I'm no chef)

材料

二つの丸型 - 8インチ (約20cm)

柔らかいマーガリン	170g
グラニュー糖	170g
薄力粉	170g
ココア粉末	54g
ベーキングパウダー	小さじ1
卵Mサイズ	3個
牛乳	大さじ1

作り方

- 1 大きめのボウルにマーガリンとグラニュー糖を入れる。
- 2 薄力粉、ココア粉末とベーキングパウダーと一緒にボウルにふるう。
- 3 卵をボウルに入れ、ふわふわのクリーム状になるまで混ぜ合わせる。
- 4 牛乳を入れる。
- 5 丸型にバターを塗り、それから、型に小麦粉をかける。
- 6 生地を二つの型に分ける。
- 7 型を両手で静かに持ち上げ、オーブンプレートの中心においてから、180℃に温めておいたオーブンに入れて、約28分かけて焼く。



ミーの揚げ春巻き (ネム・ザン)

チャン・ティ・ミー
【2007年度ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校交換留学生】

ベトナム料理は野菜と肉のバランスのよい料理なので、日本人の口に合った料理だと言えます。味付けは、ヌクナムと呼ばれる魚醤油がベースです。

日本では、ベトナムの春巻きと言えば生春巻き(ゴイ・クオン)がお馴染みですが、ベトナムでは揚げ春巻き(ネム・ザン)のほうが一般的です。揚げ春巻きをハーブやサニーレタスなどで包んで、ヌクナムに付けて食べるのがベトナム風。ご飯や米麺と一緒に食べても美味しいです。

材料

ライスペーパー	12枚
きくらげ	50g
春雨	100g
人参	1本
玉ねぎ	1個
むきエビ	200g
豚挽き肉	200g
卵	2個
ヌクナム	30cc
油	
胡椒	
*レタス	1個



作り方

- 1 ライスペーパーで巻く具の準備をする。きくらげ、春雨は水で戻し細かく切る。人参、玉ねぎも細かい千切りにする。
- 2 ボウルに豚挽き肉、包丁で粗くたたいたむきエビをいれ、ヌクナム、胡椒でした味をつけ、卵、1を入れ、よく混ぜ合わせる。
- 3 ライスペーパーに具を乗せ、両端を折って、きっちりと巻き、180℃の油できつね色になるまで揚げ、出来上がり！

※レタスに包んで、食べても美味しいですが、そのまま、ヌクナムソースにつけて、食べても美味しいです。

ヌクナムソース

ヌクナム (50cc)、レモン汁 (20cc)、砂糖 (20g)、
おろしにんにく (2かけ)、刻み唐辛子 (1本) を混ぜ合わせる



2007
07.19

Last Day of Japanese Class (修了式)

国際交流 写真館



Field Trip, Oita (夢の大橋)

2007
10.31



2007
10.27

Sports Day (体育祭)



2007
09.28

寮での Welcome Party





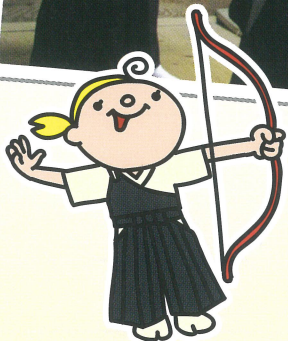
2007
10.31

寮での Halloween Party



2007
04.21

Field Trip, Aso (阿蘇烏帽子岳)

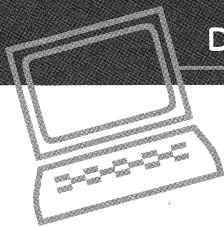




2007年海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月	ユニテック（深水祐紀、甲斐杏子）出発	
2月	ラトローブ大学（中川裕里加、荒木恵子、中山寛子、鬼崎由嘉利、松本瞳）出発 大田大学校（小幡綾加、川野秀美、潮谷くらら、佐伯美幸、武田望、平野由恵、吉田真理、鹿島兼豪）、深圳大学（牧村勇希、畑中祐紀）、北京外国語大学（田上真行、松島圭）、北京第二外国語学院（北島大介）帰国 北京外国語大学（金居明宏）、北京語言大学（北里美来）、北京第二外国語学院（木村麻里子）出発	大田大学校（崔定仁、金魯益、李善美、金容宇、千栄珍、李秀源、金鎮植、金龍國）、深圳大学（賈嘉、張小燕）、北京第二外国語学院（高峰）、ベトナム国家大学ハノイ校（ファム・チュック・クイン）帰国 大田大学校（王秀瓊先生）交換教員帰国
3月	大田大学校（孫路、松本拓、有岡恵実、管友見、本田真美、今給黎知佳）、深圳大学（宮崎みどり、草野彩）出発	大田大学校（李在康先生）交換教員来日 桂林市派遣（景悦、張軍／熊本市受入）、チュラロンコーン大学（パーリーナー・ウンスッカセーム）帰国 リバプールジョンモーズ大学（ニコラ・バナタイン）、大田大学校（権景昊、柳英浩、宋有善、李知映、李世桓、李淞爾、李賢烈、陳成恩）、深圳大学（鄭穎儀、李智麗）、北京第二外国語学院（楊華）来熊
4月	セント・メアリーズ大学（入江夢子）、カールトン大学（上野浩太）帰国	ベトナム国家大学ハノイ校（チャン・ティ・ミー）来熊
5月	キャロル大学（荒木つかさ）、インカーネットワード大学（白井美菜子）、ウィスコンシン大学オークレア校（廣田淑子、藤田翔子）、セント・メアリーズ大学（立尾諭世）、カールトン大学（坂本賢美）帰国	
6月	モンタナ州立大学（山辺いずみ、下り藤卓実）帰国	
7月	リバプールジョンモーズ大学（鳴神祐子、高島利沙）帰国	モンタナ州立大学（ロブ・フェル、アンドリア・コナーズ、サムエル・ジェンセン）、インカーネットワード大学（クリスタル・ゴンザレス／熊本市受入）、リバプールジョンモーズ大学（スティーブン・マクナリ、ニコラ・バナタイン）、ユニテック（メロディ・チャン）帰国
8月	モンタナ州立大学（中村千明、永汐温美）、モンタナ大学（松本芳枝）、インカーネットワード大学（田村聡美）、セント・メアリーズ大学（岡田慶子、佐美三綾、野中小百合）、リバプールジョンモーズ大学（西谷夕夏、松岡由起）、チュラロンコーン大学（岩下大輔）、広西師範大学（迫章文／熊本市派遣）出発	リバプールジョンモーズ大学（タイソン・バナード、クリス・グリーンヒル）来熊
9月	大田大学校（岡本恵也先生）出発 ベトナム国家大学ハノイ校（吉永貴史）出発	モンタナ州立大学（サーシャ・ジュリアード、ダニエル・セトレン、アマンダ・デイグル、ロバート・パートランド）、セント・メアリーズ大学（レジーナ・ホワイトヘッド、ピーター・マカーロン）、カールトン大学（ダニエル・シュワルツ）、ラトローブ大学（ブレンダン・ワン）、ユニテック（デニー・キム）、チュラロンコーン大学（チャットウラポーン・リムガン）、インカーネットワード大学（チャンス・グリフィン／熊本市受入）来熊
10月		
11月	ラトローブ大学（鬼崎由嘉利、松本瞳）帰国	
12月	ラトローブ大学（中川裕里加、荒木恵子、中山寛子）、ユニテック（深水祐紀、甲斐杏子）帰国	

短期派遣・研修団	その他	
		1月
短期派遣留学生（リバプールジョンモーズ大学8名、ユニテック4名）出発 短期語学ホームステイプログラム [ラトロープ大学（15名）2/17～3/18]		2月
短期語学ホームステイプログラム [ユニテック（12名）3/2～3/26] 短期派遣留学生（リバプールジョンモーズ大学8名、ユニテック4名）帰国		3月
	モンタナ大学 ジュリー・ヴェッター氏、ナンシー・ガス氏来学 4/12 大田大学校 金学俊国際交流委員長、陸根和日語日文学科長来学 4/19 インカーネットワード大学 ルイス・アグニースィ学長一行（2名）来学 4/27	4月
	リバプールジョンモーズ大学 秦健一郎氏来学 5/28	5月
大田大学校研修団（14名）来学	14号館落成式典参加者訪問団（大田大学校・深圳大学・北京第二外国語学院）来学 6/14 大田大学校経営行政大学院 院長訪問団来学 6/28	6月
大田大学校研修団（14名）帰国	モンタナ大学 橘由加氏来学 7/18 経済学部国際事情研修（アメリカコース）出発 外国語学部海外研修（アメリカコース、イギリスコース、韓国コース、中国コース）出発	7月
	経済学部国際事情研修（ニュージーランドコース、韓国コース、中国コース）出発 経済学部国際事情研修（アメリカコース、ニュージーランドコース）帰国 外国語学部海外研修（アメリカコース、イギリスコース、韓国コース、中国コース）帰国 学生自治会代表団、大田大学校へ（学生18名、引率3名） 8/6～8/9	8月
	経済学部国際事情研修（韓国コース、中国コース）帰国	9月
	EIT テリー・グレートレックス氏来学 10/3 中国工商銀行都市金融研究所との国際シンポジウム 10/16 キャロル大学 ミシェル・ルイス国際部長来学 10/19 モンタナ州立大学 ハリー・ヤマダ氏来学 10/23	10月
	深圳大学との交流20周年記念式典で学長一行深圳大学へ 11/1～11/2 ユニバーシティ・カンファレンス（中国・深圳大学） 11/1～11/2 モンタナ大学 ジャナ・フッド氏、ロバート・スクワイヤーズ氏来学 11/12 ユニテック ニック・シャックルフォード氏来学 11/21	11月
		12月



平成19(2007)年度 国籍別外国人留学生数

春学期

(5月1日現在)

地域	国籍 (国・地域名)	学部留学生					研究留学生			大学院生					留学生 交換	合計	
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3			計
アジア	中国 China	6	10	28	27	71	5	1	6	11	10		1	1	23	3	103
	韓国 Korea	1	1		1	3										8	11
	ベトナム Vietnam															1	1
	タイ Thailand										1					1	1
	ミャンマー Myanmar									1						1	1
北米	アメリカ U.S.A.										1 (国費)				1	4	5
欧州	イギリス U.K.															2	2
オセア ニア	ニュージーランド New Zealand															1	1
	合計	0	0	28	0	74	5	1	6	12	12	0	0	1	26	7	125

【8カ国(地域) 125名】

秋学期

(10月1日現在)

地域	国籍 (国・地域名)	学部留学生					研究留学生			大学院生					留学生 交換	合計	
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3			計
アジア	中国 China	6	9	27	26	68	8	1	9	11	9		1	1	22	3	102
	韓国 Korea	1	1		1	3	1		1							8	12
	ベトナム Vietnam															1	1
	タイ Thailand															1	1
	ミャンマー Myanmar									1						1	1
北米	アメリカ U.S.A.										1 (国費)				1	5	6
	カナダ Canada															3	3
欧州	イギリス U.K.															2	2
オセア ニア	オーストラリア Australia															1	1
	ニュージーランド New Zealand															1	1
	合計	0	0	27	0	71	9	1	10	12	10	0	0	1	24	12	130

【10カ国(地域) 130名】

※「留学」の査証を持っている学生のみ。
※休学者を含まず。

2007年 留学生参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生の会	熊本YWCA	ホームビジット先の紹介行事への案内と招待	随 時
第25回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	2月14日
企業人と留学生との交流会	YMCAフィランソロピー協会 熊本留学生交流推進会議	熊本の企業人との交流会	3月3日
ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	山鹿市と和水町へユネスコ会員と小旅行	3月10日
防災オリエンテーション	熊本学園大学国際交流センター事務局	防災センターで消防事情講話と地震・台風・火災体験	4月4日
春の新入留学生歓迎バスハイク	熊本学園大学国際交流センター事務局	阿蘇烏帽子岳登山・菊池足湯	4月21日
お茶会	熊本学園大学茶道部	お茶会	5月23日
第17回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月16日
水無月茶会	熊本学園大学茶道部	お茶会	6月27日
城下町くまもとゆかた祭り	熊本国際観光コンベンション協会	無料ゆかた体験	7月21～22日
城南町夏まつりホームステイ	城南町フレンドシップクラブ	城南町夏まつりの参加と1泊2日のホームステイ体験	7月23日～24日
火の国まつり	熊本東南ローターアクトクラブ	火の国祭りおもやん総踊りに参加	8月11日
留学生インターンシップ	熊本県・(社)熊本県貿易協会	夏休み中の約2週間、地元の企業でインターンシップ経験	8・9月
防災オリエンテーション	熊本学園大学国際交流センター事務局	防災センターで消防事情講話と地震・台風・火災体験	9月19日
国慶節祝賀会	熊本県華僑総会	中国人留学生を招いての交流会	10月1日
九州地区国際学生交流フォーラム	日本学生支援機構 九州支部	留学生と日本人学生の交流と平和学習	10月6日～8日
体育祭	体育常任委員会	体育祭へ参加	10月27日
秋の新入留学生歓迎バス旅行	熊本学園大学国際交流センター事務局	夢の大吊橋(九重)・阿蘇大観峰	10月31日
企業見学ツアー	熊本学園大学国際交流センター事務局	通潤酒造・サントリービール工場見学	11月10日
語り合おう!世界の友と	熊本市公民館	市民と本学留学生との交流会等	12月14日
第4回熊本地区留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	日本語による体験談の発表	12月16日
留学生とのスポーツ交流会	熊本学園大学第一部学生自治会学生議会	本学日本人学生と留学生とのスポーツ交流と懇親会	12月15日

交換教員往来

イ チェ カン
李 在 康 先生

(韓国・大田大学校)
2007年3月から1年間、
交換教員として韓国語を
担当

おかもと とくや
岡本 恵也 先生

経済学部教授
2007年9月から1年間、
交換教員として
韓国・大田大学校へ

2007年研修団往来

〈受入〉

研修団名	研修期間	団員数
大田大学校学生研修団	6月25日(月)～7月14日(土)	14名

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	派遣先	団員数
経済学部国際事情研修アメリカコース	7月20日(金)～8月16日(木)	28日間	モンタナ大学	17名
経済学部国際事情研修 ニュージーランドコース	8月2日(木)～8月28日(火)	27日間	EIT	26名
経済学部国際事情研修韓国コース	8月4日(土)～9月1日(土)	29日間	韓国外国語大学校	2名
経済学部国際事情研修中国コース	7月31日(火)～9月2日(日)	34日間	北京語言大学	10名
外国語学部海外研修アメリカコース	7月23日(月)～8月21日(火)	30日間	ベセル大学	43名
外国語学部海外研修イギリスコース	7月23日(月)～8月21日(火)	30日間	デモントフォート大学	22名
外国語学部海外研修韓国コース	7月30日(月)～8月27日(月)	29日間	梨花女子大学校	20名
外国語学部海外研修中国コース	7月31日(火)～8月28日(火)	29日間	北京第二外国語学院	36名
学生自治会代表団	8月6日(月)～8月9日(木)	4日間	大田大学校	学生18名 引率3名



アメリカモンタナ州での姉妹提携25周年記念式典にて



中国・北京にて

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

[任期：2006年1月～2007年12月]

国際交流委員長 Chair	中野裕治 NAKANO, Hiroharu		
商学部 Faculty of Commerce	土井文博 DOI, Fumihiro	杉田憲道 SUGITA, Norimichi	
経済学部 Faculty of Economics	司馬公周 FENG, Yunze	朴哲洙 PARK, Cheol Soo	
外国語学部 Faculty of Foreign Languages	野田耕司 NODA, Koji	林日出男 HAYASHI, Hideo (~2007年3月)	
		筒井久美子 TSUTSUI, Kumiko (2007年4月～)	
社会福祉学部 Faculty of Social Welfare	豊田直二 TOYOTA, Naoji	高林秀明 TAKABAYASHI, Hideaki	
国際交流センター事務室 Office of International Programs	岡村健一 OKAMURA, Kenichi	喜佐田知子 KISADA, Tomoko	

OFFICE STAFF MEMBERS

国際交流センター事務室スタッフ

次長 (室長兼務)	岡村健一 OKAMURA, Kenichi		
室長補佐	喜佐田知子 KISADA, Tomoko		
係長	切通しのぶ KIRITOSHI, Shinobu		
	矢澤恵子 YAZAWA, Keiko		
	下城由紀子 SHIMOJO, Yukiko		
	大洞時子 OHORA, Tokiko		
	寺田一利 TERADA, Kazutoshi	国際交流会館 (事務室)	

OFFICE HOURS

窓口時間

平日	Monday-Friday	9:00~12:30	13:30~17:00
土曜日	Saturday	9:00~12:30	

CONTACT ADDRESS

問い合わせ先

〒862-8680	Office of International Programs
熊本市大江2丁目5番1号	Kumamoto Gakuen University
熊本学園大学 国際交流センター事務室	2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL 096-366-3230 (直通)	TEL +81-96-366-3230
FAX 096-372-4112	FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

URL : <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/index.htm>

2007年12月発行



〒862-8680 熊本市大江2-5-1

TEL.096-364-5161(代表) FAX.096-372-4112
<http://www.kumagaku.ac.jp>

